

採 点 講 評

英 語

総 評

高2アドバンスト英語では、リスニング、語句整序、和文英訳、長文読解、自由英作文といった多様な出題により、受験者の総合的な英語力を測ることを目的としている。今回の結果を見て、自分の得意な分野と苦手な分野を把握し、的を絞った学習計画を立てられるようにしたい。

また、総得点だけでなく、大問ごとの出来や、誤答の内容も把握してほしい。特に自由英作文や和文英訳、長文問題中の記述形式の問題などは、一朝一夕に得意になる分野ではないが、大学入試に向けて実力をつけなければならない部分である。模範解答と解説をよく読み、自分の答案に足りなかった部分や工夫できる点を見つけるようにしよう。

問題別講評・採点基準

① リスニング

リスニングでは必ず放送前に設問に目を通し、メモを取りながら音声を聞くようにしよう。

問題A

(3) 正答の選択肢c内のdevelopmental problemsがそのままの表現で放送されていたためか、比較的にできていた。反対に、正答の選択肢が放送内容を別の表現で言い換えている場合に、正答率が下がる傾向にあるようだ。単語だけで判断せず、内容を理解した上で判断しよう。

問題B

(6) どちらの空所も放送された語で埋めることができるため、空所補充型の要約問題として難易度は高くないのだが、白答が目立った。今回のように、意見交換をする対話文の聞き取りでは、双方で意見が一致しているポイントはどこか、また意見が分かれているポイントはどこか、それぞれ整理しながら聞くようにしよう。また、前後のつながりから見て不適切な品詞を書く誤答も散見された。空所を含む文の構造をきちんと確認し、文法的に適切な品詞で解答することを心がけよう。

② 語句整序・和文英訳

問題A 語句整序

英文中の整序問題で、日本語も与えられていない。与えられた語句から文を作り上げることができるかどうか

かを見た。

(1) suchを見ると反射的にsuch a ~の形で考えてしまいがちだが、suchを使う表現はいくつかある。なじみのある表現から発想するのはよいが、すべての選択肢を並べたところで、文法的に成立しているか、また前後とつなげて読んで意味が通じるかをきちんと確認しよう。

(2) 文頭にthe disappointmentを置いた誤答が多く見られた。カッコを含む文の後半で、the world以下が1つの節になっていることに注意しよう。また、カッコ内のpresentの使い方迷ったような解答も多く見られた。be present at ~ (～に出席して) という形容詞としての用法は和文英訳や自由英作文でも頻出なのでぜひ覚えておきたい。

(3) 空所末尾のno matter what … (たとえ何を…しようとも) の表現はできているが、冒頭のhow come … (どうして…するのか) ができていないものが多かった。

(4) 空所直前のshould notに続けてshould not have to leftとした誤答が多く見られた。should not have done (…しないほうがよかったのに (実際はした)) は仮定法との関連でも問われやすい表現なので、整理しておこう。

(5) it remains to be seenの形が何となくできているのに、カッコのあとと文法的につながらない解答が散見された。

問題B 和文英訳

和文英訳は、訳しやすい日本語に直してから英訳すること、できるだけ基本語を用いて簡潔に表現することを意識して取り組みたい。減点部分を必ず見直し、同じ間違いを繰り返さないようにしよう。

①「言葉」が「『もうバイオリンは弾けないね』という」と「不注意に思える」の2つの要素で説明されているため、文構造に迷った解答が多く見られた。表し方は何通りか考えられるが、模範解答や別解で文構造を確認しておこう。最も気になったのは、「もう」をyetとする誤訳。yetは「(すでに) もう; まだ」の意味なので、文脈に合わない。問題文の「もう」は「もう今後は; もはや」の意味なので、anymoreが適切である。また、「～のやる気に火をつける」は「～に…する意欲を起こさせる」と考えてmotivate ~ to doやencourage ~ to doを使うと書きやすい。make ~ to doは「～に (無理矢理)

…させる」の意味で、今回のように「意欲が起きた」という状況の訳としては不適切である。

⑥「逆境に打ち勝つ」で win を使った解答が多かったが、win は win the game (試合に勝つ) のように、目的語には「試合・競技」または「賞品」をとるため、ここでは不適切。「困難」などを目的語にとる動詞表現としては overcome や get over, fight against などを用いるとよい。

[3] 長文読解

砂の需要の急増とそれによる影響について述べた英文。身の周りにも普通に存在する「砂」を資源として意識することは少ないので、意外な内容だと感じた人も多かったのではないだろうか。英文全体として難しい表現は少ないが、下線部で出題されているように意味を取りづらい表現があるので、前後の文脈を考えながら読み進める力が問われた。

(1) run out of ~ (～が不足する) の表現を知らない場合でも、第1段落第1文の「ほとんどどこにでも砂があるように見える」という内容と、下線部を含む文の文頭の But、下線部以降の「砂は最も多く消費される資源である」という内容から、ある程度推測することができるだろう。

(2) d という誤答が多かった。下線部のあとの説明に too smooth and round to be used (使えないほど滑らかで丸い) とあるので、砂漠の砂の問題点は量ではなく質であるという点に注意しよう。

[4] 長文読解

第3段落以降のキーワードである、altruism (利他主義) という単語が難しく、読解に困難を覚えた人もいるかもしれない。ダッシュのあとの説明や続く具体例から、これがどのようなものか、なるべく早い段階でイメージできるとよかっただろう。

(1) 短いが、文法的に重要な要素がたくさん詰まった文。無生物主語の訳し方、wouldn't が仮定法として使われていること、simply が「単に」ではなく、「絶対に…(ない)」という意味であること、などをしっかり復習しておこう。

(2) 英文構造が複雑な文だった。解説を読んで、構造をよく確認しておこう。答案では、when it comes to ~ をうまく訳せていないものが多く見られた。基本的な表現なので、しっかり押さえておくこと。

(4) 下線部の直前の In contrast と下線部の in this way の読み取りがポイント。in contrast (対照的に) という言葉が出てきたら、「何」と「何」が対照的な関係にあるのか、問題になっていないときでも考える習慣をつけたい。

(5) かなりの難問となったようだ。該当箇所が For

example で始まる次の段落であることに気づけた人がそもそも少ない。(4) で取り上げた in contrast もだが、このような論理展開を示す語句に注目して読む訓練を積むこと。該当箇所に含まれる vice versa (逆もまた同じ) は難しい表現だったと思うが、これを機にしっかり覚えてほしい。

[5] 自由英作文

文法・語彙と内容・構成の2つの観点に分けて採点した。指定語数に対する不足・超過については、5点の減点。ただし、指定語数の半分(35語)未満のものについては、文法・語彙点を与えていない。

○文法・語彙点 ……15点

誤りの数に応じて、15点を越えない範囲で減点している。

○内容・構成点 ……15点

内容に応じて、15点(減点なし)、10点(-5点)、5点(-10点)、0点(-15点)のいずれかの点数をつけている。以下のような答案は内容・構成点の減点対象となる。

- ・賛成・反対の理由が説得力に欠けるもの
- ・賛成・反対の論旨に一貫性がないもの
- ・同じ内容の繰り返しになっているもの

今回のテーマは、すべての高校で英語以外の言語を選択できるようにすべき、という意見に対する賛否を問うものだった。予想に反し、圧倒的に「反対」の答案が多く、「英語がまだ得意でない人が多い」「英語が一番役に立つ」という理由が挙げられていた。「賛成」の答案では「日本に多くの外国人が住むようになっているが英語が話せない人も多い」「海外で仕事するのに中国語など英語以外の言語も必要」といった理由がよく見られた。また、賛成している答案でも「しかし、英語も大切だから他の授業を減らして2つの言語の授業が必要」という意見もあった。このような答案は70~80語という制限語数を生かし、反対意見も組み込み、うまくまとめていると言える。意見を述べる英作文では、自分とは異なる意見の人に対して説得するという視点を持って取り組みたい。理由を述べる際には、具体例やエピソードを挙げるなどして、読み手が納得できるような根拠を示すように心がけよう。